

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上 046</b>	
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに 073</b>	
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

Enhancing Value for Stakeholders

社会とともに

持続可能な社会の発展に貢献するために

日産のビジョンは「人々の生活を豊かに」することです。製品やサービスの提供を通じて社会から必要とされる企業を目指すと同時に、より豊かな未来を次世代に引き継ぐために持続可能な社会の発展に貢献したいと願っています。日産はグローバル社会の一員としてさまざまな分野での社会貢献活動に取り組んでいます。

グローバル企業としての取り組み

社会との共生に根ざした日産の社会貢献活動

日産は社会の持続可能性を実現するため、3つの重点分野「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」を中心に、企業市民として果たすべき支援活動を行っています。実際の活動にあたっては、世界各地の日産の事業所が同じビジョンをグローバルで共有しながら、それぞれの国や地域の実情、ニーズに合った活動を展開しています。事業所近隣では、雇用の創出など経済的な貢献はもとより、社会的な貢献を通して地域コミュニティとの強固な関係づくりに努めています。国や地域を越えて取り組むべき課題には、グローバルな考え方と各地域に最適な活動のバランスをとりながら、日産らしい貢献ができるよう心がけています。

社会貢献 ステアリング コミッティに関する組織図



<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/>  
 社会貢献の取り組みに関する詳しい情報は、上記のウェブサイトに記載しています。あわせてご覧ください。



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

また、2006年度より「社会貢献 ステアリング コミッティ」を会社横断的な組織として発足、社会貢献活動に携わる部署および役員を集め、より一貫性のある社会貢献活動に向けた議論を活性化させています。(前ページ参照)

日産は社会貢献活動への取り組みにおいて、以下のような点が重要と考えています。

### 1. 社員の自発的な参加意識を育てる

社員一人ひとりの社会貢献活動を積極的に支援し、より多くの社員が企業市民意識を持つことにより、大きな社会貢献の輪を育てていきます。

### 2. 会社の強みや特性を生かした活動を考える

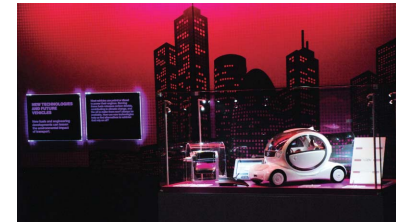
金銭的な支援だけでなく、ノウハウや日産関連施設の活用など、日産が本業で培った資源を十分に生かすことによって、持続的な活動を行うことを目指しています。

### 3. 専門性のあるNPOやNGOとの協働

日産の社会貢献活動をより実りあるものとするために、NPO(民間非営利組織)やNGO(非政府組織)と連携した協働プログラムの可能性を探求していきます。

## ザ・サイエンス・オブ・サバイバルに協賛

日産は、環境教育プログラムおよびグローバルな社会貢献活動として、「ザ・サイエンス・オブ・サバイバル」に協賛しています。ロンドン科学博物館を皮切りに、5年間で全世界20カ所の会場を回るこの展示は、2050年の将来に生活環境がどのように変化しているかを、子どもたちにも分かりやすくインタラクティブに伝えるもので、「ニッサン・グリーンプログラム2010」のエッセンスと先進技術を分かりやすく紹介し、環境問題を考えてもらう仕組みになっています。展示は今後、米国や日本など、多くの国の主要な科学館・博物館で開催される予定です。



「ザ・サイエンス・オブ・サバイバル」

## 日本での社会貢献活動

### 「ニッサン童話と絵本のグランプリ」と「ニッサンゆかいな絵本と童話展」

日産では「教育への支援」の一環として、子どもたちに夢や創造性あふれる童話や絵本を届ける活動を行っています。「ニッサン童話と絵本のグランプリ」はアマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストで、(財)大阪国際児童文学館と協力して1984年から毎年実施しています。2007年度に開



「第24回ニッサン童話と絵本のグランプリ」の表彰式

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

催された第24回グランプリには、日本全国から寄せられた童話応募作品2,336編、絵本応募作品696編の中から38編の入賞作品を決定し、表彰しました。

大賞に選ばれた作品は毎年出版し、公立図書館（約3,500館）や日産の事業所近隣の幼稚園など（約650園）に寄贈しています。プログラム開始からの24年間で累計寄贈冊数は約15万冊にのぼります。

また、絵本の世界を体験できる「ニッサンゆかいな絵本と童話展」をこどもの城・ギャラリー（東京都渋谷区）で開催しています。本イベントは子どもたちの好奇心や創造力、思いやりの心を育むことを目的に、1992年から（財）児童育成協会と共催しているもので、童話や絵本にちなむさまざまな展示やワークショップを行っています。日産の社員や大学生がボランティアとして多数参加しています。

### 未来の人材を育成する「日産NPOラーニング奨学金制度」

NPOとのパートナーシップにより継続してきた活動のひとつに「日産NPOラーニング奨学金制度」があります。1998年にスタートしたこの制度は、NPOでの活動体験を希望する大学生・大学院生を公募し、活動実績に応じて奨学金を支給するというもの。若者たちがNPOでの体験を通じて創造性や考える力、自ら行動する力を養うことを狙いとしています。10回目を迎えた2007年度は、23大学、34名の応募の中から、書類選考・面接により選ばれた11名の奨学生が、環境、国際協力、福祉などのプログラムに参加しました。2007年10月には日産本社において奨学生を集めた中間報告会を行い、活動の質向上に向けた奨学生同士の情報交換の場を提供しました。

### 教育現場と連携して日産の環境への取り組みを紹介

日産は2007年11月、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）と共催で環境ボランティアを推進する公開講座「環境ボランティア学校」を開催しました。「ニッサン・グリーンプログラム2010」に関する講義のほか、WAVOCに登録している学生25名とグローバル環境企画オフィスの社員が環境に優しい将来の自動車を考えるグループワークのセッションが設けられ、お互いに新鮮な学びの場となりました。

2007年11月には、日産の燃料電池車「X-TRAIL FCV 2005年モデル」による環境出張授業を、栃木県日光市の6校の公立中学校で行いました。この活動は当社環境・安全技術渉外部と日光市教育委員会のコラボレーションにより生まれたもので、2006年度に続き2年連続での実施となりました。300人を超える生徒や先生にFCVを試乗していただき、将来のモビリティ社会を考える場としました。また、日産が協賛した芸術祭「軽井沢八月祭」の開催期間中に、地元の公立小学校3校で環境出張授業を実施。演奏家の送迎に活躍したFCVを活用し、生徒277名に環境授業とFCVへの試乗機会を提供しました。



「日産NPOラーニング奨学金制度」  
第10期修了生



軽井沢八月祭で活躍した燃料電池車  
「X-TRAIL FCV」

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

## 「日産ボランティア活動資金支援制度」で社員の社会参加を支援

日産は、社員のボランティア活動や社会参加を資金面から支援する「日産ボランティア活動資金支援制度」を1996年から導入しています。社員のシチズンシップ(市民)意識の醸成を目的に設けられたこの制度は、社員が寄付を行うときに会社からも同額の寄付(マッチング・ギフト)を提供するほか、ボランティア活動や物品購入の費用が不足した際に、それらの資金を援助するものです。日産は、社員による自主的な社会参加や寄付活動を奨励し、社員が積極的に社会貢献活動に取り組めるようサポートしています。

## 地域との協働で全国車いすマラソン大会を開催

日産追浜工場では、2007年11月30日からの3日間、地域の関係諸団体とともに、全国車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ2007」を開催しました。この大会は、地域の活性化と障害者スポーツの普及を目的とした、地域と企業の協働運営による車いす陸上競技の総合大会です。

8回目となる今大会には、日本トップレベルの選手を含む約200名の選手が参加。追浜工場内のテストコース「GRANDRIVE」や周辺の公道を利用した新たなコースを使用して、フルマラソンとハーフマラソンで構成されたロードレースのほか、短距離タイムレースやジュニアを中心とした初心者向け講習会も実施しました。また、この大会を記念して社員による「太陽募金」を設立し、集まった寄付金を障害者スポーツ振興に役立ててもらうため、障害者陸上競技団体などに贈りました。



車いすマラソン  
「日産カップ追浜チャンピオンシップ2007」

## 学術文化の創成を支援する「日産科学振興財団」

日産科学振興財団は、日本の学術や文化の向上に寄与することを目的に、日産自動車創立40周年(1974年)を記念して設立されました。「社会の進歩のためのソリューションの創成」を活動目標として掲げ、「環境研究」「認知科学研究」「科学・技術教育研究」の主要3分野に重点を置いた助成事業を行っています。一例として、交通問題に関わる持続可能性と環境に対する意識を高め、東南アジアの将来のリーダーを育成することを目的とした、合宿形式のプログラム「Nissan Workshop in IPoS(Intensive Program on Sustainability)」を助成しています。これまでの助成実績は累計で約2,000件、助成金額は60億円にのびります。

1993年からは新進気鋭の研究者を褒賞する「日産科学賞」を毎年実施しています。2007年度は体内に蓄積される有害酸化物および体内に入る異物・毒物によるストレスメカニズムの研究である「生体の環境適応・応答の分子機構の解明」を選出し、東北大学副学長・医学系研究科の山本雅之教授に同賞を授与しました。この研究は、多くの疾病の分子レベルでの解明につながるものと期待されています。



合宿形式のプログラム  
「Nissan Workshop in IPoS」に助成

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

## 製造業ならではの教育支援プログラム「日産モノづくりキャラバン」

2007年7月には新たな社会貢献活動「日産モノづくりキャラバン」をスタートさせました。神奈川県教育委員会とのコラボレーションにより、県内の小学校5年生を対象に開発されたこのプログラムは、組立おもちゃを使ったクルマの製造および工程改善にチャレンジしてもらうセッションと、実際の車両組立で使われている工具類を体験するセッションからなる、日産オリジナルの体験型教育支援プログラムです。モノづくりの楽しさや、チームワークの大切さ、小さな工夫の積み重ねが大きな成果につながることを、子どもたちに直接肌で感じてもらうために企画したもので、第1回目出張授業は2007年7月10日に横浜市立立野小学校にて実施しました。工場見学とは一味違った現場体験を提供する本プログラムを、今後も継続的に行っていく予定です。



日産モノづくりキャラバン号の前で  
全員集合

## 能登半島地震、新潟県中越沖地震による被災地への支援活動

日産は、2007年3月25日に発生した能登半島地震に対して4台のレンタカーを無償で現地のボランティアセンターに提供、現場での効率的なボランティア活動に貢献しました。同時に行った社内募金には総額約200万円が寄せられ、これを社員からの善意として石川県共同募金会などに寄付しました。

2007年7月16日の新潟県中越沖地震で被災した地域に対しては、総額500万円の緊急支援を行いました。300万円は義援金として社会福祉法人中央共同募金会「災害ボランティア活動資金」に寄付し、残りの200万円分でレンタカー4台を無償貸与しました。また、日本経済団体連合会を通じてタオル1,000枚を寄贈したほか、日産の各事業所に備蓄してある簡易食料や飲料水を柏崎市に提供しました。加えて、日産労組と共同で実施した社員募金の寄付金約350万円を新潟県共同募金会などに寄付しました。



復興支援活動に向けてレンタカーを提供

## 北米での社会貢献活動

### 未来のエンジニアを育てる学習プログラムに出資

日産は2007年5月、米国自動車技術会(Society of Automotive Engineers)が出資するSAE財団に150万ドルの寄付を行うことを発表しました。この資金は「A World In Motion (AWIM)」と呼ばれる学習プログラムの開発と実施に充てられます。AWIMは、子どもたちに科学、技術、工学、数学分野の実践的な学習体験を提供するもので、技術者を中心とするボランティアを教室に派遣し、生徒や教員たちと一緒に取り組むことで学習効果を高めています。新たに開発するカリキュラムは、小学校に入学し

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

たばかりの子どもたちに算数や理科のおもしろさを知ってもらおうという試みです。未来のエンジニアや科学者を育てるSAE財団の取り組みを支援することは、日産にとっても大きな喜びです。

## 世界自然保護基金 (WWF) とのパートナーシップ

北米日産会社と世界自然保護基金 (WWF) は、全米の大学の若きリーダーたちを環境保護の有力な担い手として育成するためのパートナーシップを結んでいます。「Nissan-WWF 環境リーダーシッププログラム」は、将来の環境リーダーとして期待される人材に、地球が直面している問題についてより深く学んでもらうことを目的としています。具体的には、環境問題に取り組む科学者や政策担当者、経済人との会合、リーダーとしてのスキルの開発、科学的なフィールド調査の体験、全米各地の仲間との学際的なネットワークづくりなどがあります。

北米日産会社は、年間予算100万ドルのパートナーシップ基金に協力して若いリーダーたちの未来に投資しているほか、WWFの重点保護地域における取り組みも支援しています。WWFの「U.S. Southeast Rivers and Streams」プログラムでは、日産が拠出した資金により、米国南東部で水資源保護活動を行っている地元NGOに少額の助成金を提供できるようになりました。テネシー州に移転した北米日産会社の新社屋近くを流れるハーベス川もその対象に含まれています。この画期的なパートナーシップにより、北米日産会社とWWFはともに地球の未来を支える活動の一翼を担っています。



「Nissan-WWF 環境リーダーシッププログラム」で将来の環境リーダーを育成

## 被災地の清掃活動に社員ボランティアが参加

2008年2月、米国の南東部を竜巻が襲いました。数百人が重軽傷を負い、多くの方が亡くなったり家を失ったりしました。テネシー州中部では竜巻被害を受けた地域の人びとを支援するため、日産社員がボランティアとして被災地の清掃に協力しました。ボランティアたちは自ら道具を持ち寄り、けがをしないよう防護したうえで、多くの地元住民とともにゴミや残がい撤去する作業にあたりました。

さらに復旧活動を支援するため、日産は12万ドルを米国赤十字社ナッシュビル支部に寄付。この資金はテネシー州で救援活動の中心的な役割を担う赤十字社の活動に役立てられました。日産は、近隣地域の人びとを思いやる地域社会の一員でありたいと考えています。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

## 欧州での社会貢献活動

### 災害時の衛星通信サービス提供に協力

欧州の統括会社である日産インターナショナル社は、災害時に支援活動を行う世界中の緊急救援組織を支援しています。2008年2月8日にはNGOのテレコム・サン・フロンティアール(TSF)に対して、世界各地の被災地で使用できるよう、日産の四輪駆動車「パトロール」を提供しました。このクルマには衛星通信サービスのユーテルサットが提供するパラボラアンテナが搭載されています。

TSFは、被災地における通信サービスの提供に重要な役割を果たしており、世界のどこで緊急事態が発生しても、24時間以内に専門家チームを派遣できる態勢を整えています。TSFと日産のパートナーシップは、航空宇宙・人工衛星の技術応用を推進し、それらを人道的・社会的利益とすることを目指す国際機関 International Independent Institute for Space and Satellite Solutionsの協力によって実現しました。

### 欧州における人道支援

日産インターナショナル社は2007年12月、NGOパートナーであるCAREフランスに、クリスマスカードの購入と郵送にかかる費用4,000ユーロを全額寄付しました。日産インターナショナル社は2005年、環境への配慮からクリスマスカードを印刷せずにインターネットで送付する方法に切り替えました。これによって節約できた資金をCAREフランスに寄付し、世界各地の人道支援活動のために役立ててもらっています。このほか、スペインの日産イベリア自動車会社と日産モトール・イベリカ会社は、国際連合児童基金(ユニセフ)に5,000ユーロを寄付しました。

### スペインの小学生を対象とした工場見学

日産モトール・イベリカ会社は毎週、小学生を対象とした工場見学ツアーを開催しています。8歳から12歳までの子どもたちをバルセロナ工場に招き、自動車がつくられる過程を見てもらう校外学習プログラムです。

日産のクルマづくりへの想いを子どもたちに伝えようと企画したもので、1回約2時間の見学を週2回実施しています。1回の見学には生徒と教職員を含む50名前後が参加します。見学の際には、分かりやすい文章とイラストが入った物語風のガイドブックを用意して、子どもたちの理解の促進に努めています。



世界各地の被災地で使用できるよう、TSFに四輪駆動車の「パトロール」を提供

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

一般海外地域での社会貢献活動

「日産デザインフォーラム」をアジア各地で開催

日産自動車(株)は、2006年からアジア各地で「クルマのデザイン」をテーマとするフォーラムを開催しました。「イマジネーションファクトリー」と名づけた同フォーラムは、シンガポール、台湾、中国、マレーシア、フィリピン、タイ、香港の地元デザイン振興団体との共催で実施。日産のデザイナーと現地で活躍するクリエイターが、パネルディスカッションを通じてデザインの新たな可能性を探るというものです。フォーラムでは、自動車デザインのトレンドへの理解を深めてもらうため、日産のデザインに対する姿勢や方針、取り組みを紹介する展示も行い、広く一般に公開しました。

このほか、国によってはカーデザイナーや工業デザイナーを目指す学生向けにワークショップを開催しました。「2030年のクルマ」というテーマで作品を描き、それを日産のデザイナーが評価するというイベントには多くの若者が参加し、熱心に取り組みました。延べ2,000名が参加者した「イマジネーションファクトリー」は、自動車メーカーが開催した初めてのデザインイベントとなりました。



アジア各地で開催した「日産デザインフォーラム」

中国を起点にシルクロードを徒歩でたどる募金活動

日産(中国)投資有限公司が開催している「日産10年徒歩シルクロード国際市民徒歩大会」は、シルクロード約7,000kmを10年かけて歩きながら募金活動を行うというイベントです。参加者にとっては、歴史的なシルクロードをたどりながら中国の歴史や美術のすばらしさに触れられるだけでなく、中国の教育や環境問題についてあらためて考える良い機会となっています。このイベントでは、中国の貧困地域にある小学校のための募金活動も行われています。

2006年には、内陸部の貧困地域に住む人びとを列車病院内で無料診療する「健康列車光明行き」事業に対して、日産(中国)投資有限公司が10万元(約140万円)の寄付を行い、主催者の中国商務省と中華健康列車基金会から感謝状が贈られました。



シルクロード7,000kmを10年かけて歩きながら募金活動を行う

中国中西部の小学生を対象とした交通安全イベントに協賛

日産(中国)投資有限公司は2007年9月、中国中西部の小学生たちを対象とした交通安全啓発イベントに協賛しました。この活動は中国道路交通安全協会、中国共産党貴州省委員会宣伝部および貴州省の3つの行政機関が主催したもので、経済発展の途上にある中西部地域の小学生に安全対策グッズを支給するとともに、交通安全意識を身につけてもらおうと企画されました。具体的には、貴州省にある天



中国中西部の小学生にイエローキャップを寄贈



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

竜小学校と南花苗寨希望小学校の生徒たちにイエローキャップと交通安全のメッセージを添えた学習用品を寄贈したほか、楽しみながら交通安全意識を身につけられる「ちびっこ交通警察リズム体操コンテスト」を開催しました。

### 南アフリカ日産による「アドバッグ」キャンペーン

「アドバッグ」は、日産の看板をリサイクルしたビニール材で生地をつくった通学用カバンです。南アフリカ日産自動車会社（NSA）が企画した「アドバッグ」キャンペーンは、地球環境の持続性や人道的支援を目的としたプロジェクトで、使い終わったNSAの看板を生地素材として再利用し、心身に障害を抱える人びとにバッグの製造を委託しています。完成したカバンは農村地域の小学校に配布され、それまでポリ袋に教科書を入れて持ち歩いていた子どもたちにも大変喜ばれています。

このプロジェクトは2006年から北東部のリンポポ州で始まり、すでに年間1万5,000個以上のアドバッグが贈られました。現在は北西州、クワズール・ナタール州、東ケープ州へも活動の輪を広げています。

NSAでは恵まれない子どもたちを支援するためのさまざまな活動を行っており、「アドバッグ」プロジェクトもそのひとつです。今後は「モバイルアイクリニック（移動眼科診療車）」など他のプロジェクトとも連動させながら、日産独自の地域貢献プログラムとして拡充していく予定です。



使用済みの看板を生地素材として再利用し、通学用バッグを製作・配布している「アドバッグ」キャンペーン

### 南アフリカの教育・職業訓練を支援

南アフリカ日産自動車会社（NSA）では、南アフリカの教育・職業訓練に向けた多くの学習プログラムも支援しています。NSAはこの10年、毎年5月に南アフリカ7州で行われる「Rally to Read（読み書き大会）」に協賛しています。大会では参加企業が提供する読み書きの教材を使用し、集まった教材はその後、南アフリカの農村地域の学校に贈られます。また、教員には生徒の学力に合わせた効果的な教え方ができるよう、トレーニング教材を配布しています。

2007年には、製造を休止した小型車「アルメーラ」シリーズの在庫エンジン15基を地元の学校15校に寄贈しました。これらの学校は、首都プレトリア近郊のロスリンにある日産工場周辺の3州にあり、いずれもモーターの技術訓練をカリキュラムに取り入れています。寄贈したエンジンはそこで学ぶ学生450名の研修に役立てられました。

さらに、南アフリカ産業界の技術力向上を支援するための「学習プログラム」を3年前から実施しています。若者に企業の採用基準を満たす技術力を身につけてもらおうという試みで、これまでに約350名がプログラムに参加しています。参加者はもちろんのこと、南アフリカの製造業全体にとってもプラスとなっています。



各種の教育・職業訓練を積極的に支援している南アフリカ日産自動車会社

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>046</b>
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
<b>社会とともに</b>	<b>073</b>
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

## 移動眼科診療車「モバイルアイクリニック」を提供

南アフリカ日産自動車会社（NSA）は、現地の人びとの目の健康を促進する活動を実施しています。プロジェクトの第一歩として、2006年9月には視力検査用機器を装備した日産のバン「インタースター」を「モバイルアイクリニック（移動眼科診療車）」として、保健活動を主催する現地の財団に寄贈しました。計画はその後、NPOの International Centre for Eyecare Educationとのパートナーシップによって拡大し、2008年と2010年にはさらに2台の専用車両を寄贈する予定で、プロジェクト規模は5年間で総額480万ランド（約6,500万円）となる見通しです。

「モバイルアイクリニック」は、南アフリカの農村地域の小学生に眼科検診を提供しています。車内で視力検査を実施し、メガネが必要な子どもたちに年間4,000個ほどのメガネを処方することができます。第1号のバンは2007年からクワズール・ナタール州で活動を始めており、今後は新たに加わる2台を使って活動範囲を南アフリカ全土に広げる予定です。農村地域では身近な医療機関や十分な交通手段が整っておらず、「モバイルアイクリニック」はそうした地域の子どもたちにとって、なくてはならないプロジェクトとなっています。



南アフリカの農村地域を巡回診療するモバイルアイクリニック

### Messages from Our Stakeholders ステークホルダーからのメッセージ

#### 日産とともに息の長い社会貢献活動を



ゲートウェイ・ブレッジ（南アフリカ）  
生産管理担当  
スーザン マヴング 氏

私たちゲートウェイ・ブレッジでは、日産の広告看板に使用したビニール材を再利用した通学用カバン「アドバッグ」をつくっています。材料が届くとみな大喜びで出迎えます。この施設で働く障害を持った人びとのほとんどがこのプロジェクトに関わっており、こうした有意義な活動に参加することが彼らの自信や誇りとなっているのです。

南アフリカ日産自動車会社の協力により、私たちゲートウェイ・ブレッジは必要な事業資金

を調達し、息の長い活動を続けることができます。さらに、アドバッグを支給された農村地帯の子どもたちは、教科書を持ち歩くためにポリ袋を使う必要がなくなります。破れたポリ袋が捨てられてゴミになることも減り、日産の支援が地域のゴミ削減にもつながっています。